

## 【寄稿】夢を実現

## 米プロバスケットでマネージメント

## OB中川選手も所属「ハーレム ストロングドッグズ」で

栗原尚子&lt;平15文&gt;

専修大学卒業後、あっという間に3年近くが経ちました。卒業後は米カンザスのウィチタ州立大学大学院スポーツアドミニストレーション学科で、2年間勉強しました。

この10月からABAという米独立プロバスケットリーグのチームの一つで、ニューヨークを本拠地とする「ハーレム ストロングドッグズ」のスタッフとして働いています。

そしてこのチームには02年に専大バスケット部が初の大学日本一になった際に、主力選手として活躍した中川和之選手(平17経済)が所属しています(第422号既報)。

米大学院で専門的に学ぶ

念願かなってスポーツチームで働くことになったのは、4年次の米オレゴン大学交換留学から始まります。

スポーツ関係で仕事ができればとは思っていましたが、何をすればよいかも分からず、この道を目指すとは思いませんでした。

しかしオレゴン大に留学した際にアメリカではスポーツマネージメントという学科が珍しくないことを知り、また戻ってこよう決めました。ただ、実際には日本で就職するかどうか迷いました。大学院に合格する保証もないこと、卒業してもスポーツで働けるか分からないこと、入学できたとしても、大学院で自分の英語力、全くないスポーツマネージメントの知識でやっていけるのか……と。その際には、国際交流事務課の方々にご相談にのっていただいてアドバイスをいただき、大変お世話になりました。

留学中には自分の英語力に苛立つことやうまくいかないことなどたくさんありました。そんな中、クラスメートやルームメート、友人に助けってもらったことは忘れられません。2年目に半年間、同じくABAリーグのチームでインターンをしたことが一番大きな経験となりました。チーム経営、運営のみならず、最高のチームスタッフに恵まれ、私のような英語力にも関わらず、働く姿勢などを評価してくれ、貴重な存在だと言ってもらえました。よくアメリカ人は“結果”だけを判断すると聞きますが“経過”もみてもらえるのだなと知りました。ここでの経験は、私のアメリカ人、アメリカを見る目や自分自身も大きく変えてくれました。おまけにこのチームでは、リーグ優勝も経験させてもらいました。

いま、私はやっとスタート地点に立ったところです。これからも自分のやりたいことを信じて、周りの方々の助けに感謝してがんばっていきたいと思います。中川選手もバスケットボール選手としての彼の夢に向かってがんばっています。ぜひ、皆様の応援よろしくお願ひします。



12月4日の試合で活躍する中川選手



「専大初のNBAプレーヤーを目指します」と抱負を語る中川選手と栗原さん(オフィスで)。強力な“専大コンビ”の誕生だ



## 専大附属高・専大松戸高の生徒ら90人

### 法廷教室で模擬裁判を体験

11月19日、神田キャンパスの法廷教室で専修大学附属高等学校(藤村富士男校長・東京都杉並区)と専修大学松戸高等学校(松本英夫校長・千葉県松戸市)の生徒たちによる模擬裁判が行われた。

恒例のこの催しは、エクステンションセンターが主催し、東京弁護士会法教育センターの協力を得て行われているもので、参加者・聴講者は両校合わせて約90人。裁判官、検察官、弁護人はすべて生徒たちが演じ、今回は、もみあいからの死を発端とした事件が、傷害致死罪か正当防衛かを巡る裁判を、弁護士のサポートを受けながら真剣に繰り広げていた。



傍聴席の生徒とともに裁判に取り組んだ

## 《留学生からのメール -8-》

### 「ディナー」は昼食、夕食は「ティー」

ワイカト大学<ニュージーランド>に中期留学中 和久ひとみさん(文3)

私が学んでいるワイカト大学付属語学学校は、ハミルトンという都市にあります。ここは静かでとても住みやすく、さらにオークランドやロトルアなどの観光名所にも近いので、勉強にアクティビティに最適な所です。

学校ではアジアを中心にサウジアラビアやロシアなど、世界各国からきた留学生が日々、英語力向上へ勉強に励んでいます。クラスの雰囲気はとても活発で、発言も多く、授業スタイルも日本のそれとは異なる点があり、楽しく英語を学べます。



例えばプレゼンテーションやコンピュータを使ったアカデミックライティングの授業があります。休み時間にはお互いの国の文化や言葉を教え合い、国際交流を図っています。彼らとの会話の中で感じたことは、日本のメディアの力です。アニメやドラマは海外でも人気があるようです。

私のホストファミリーはウェールズからの移民です。彼らはとても優しく本当の家族のように接してくれます。最初は生活スタイルの違いに戸惑うこともありましたが、例えば、彼らはいわゆる“ディナー(dinner)”というものを夜には食べません。一日の中でのメインの食事は昼食で、夕方に“ティー(tea)”という軽めの夕食をとります。また、会話の中で伝わらないことや勘違いすることもあります。しかし、こちらが一生懸命伝えようとする姿勢を見せれば、彼らも意味を汲み取ろうとしてくれるので、困ることはありません。

留学期間も半分以上が過ぎ、成長した点もあると思いますが、まだまだ自分の中では満足できていません。この留学は自分の糧になると信じて、残りの日々を過ごしていきたいと思います。

## 《健康フラッシュ》

## インフルエンザ対策

毎年冬になるとインフルエンザが流行します。インフルエンザは普通の風邪と違い38度C以上の高熱と共に筋肉痛、関節痛等の全身症状が突然出現するのが特徴です。

インフルエンザに罹らないようにするには、普段からの手洗い・うがいに加えてワクチンを接種することが重要です。インフルエンザは年によって流行する型が異なるため、インフルエンザワクチンは毎年接種する必要があります。重症化しやすい高齢者や乳幼児と一緒に生活している方などは他人にうつさないようにするためにもワクチンの接種をお勧めします。

インフルエンザのワクチンは鶏の卵の成分から合成されているため、卵に対するアレルギーがある方は接種ができないことがあります。また、過去にワクチンでアレルギーの出たことがある方、痙攣の既往がある方なども同様に接種ができない場合がありますので注意が必要です。

ワクチンを接種してからウイルスに対する免疫ができて上がるまでに数週間かかるため、できれば12月初旬までに接種することがよいでしょう。

万が一インフルエンザに罹ったらどうしたらよいでしょうか。インフルエンザウイルスに対して有効な治療薬が発売されています。どれも5日間使用することにより発熱の期間を短縮することができます。ただし、熱が出始めてから48時間以内に使い始めないと効果がないといわれています。

いずれにしろ、「インフルエンザかな」と思ったら早めに病院を受診するようにしましょう。

(保健室)

## 専フィル

### 多摩区民祭に参加

11月12日に生田キャンパスに隣接する、生田緑地を会場に行われた第28回多摩区民祭で、専修大学フィルハーモニー管弦楽団が金管アンサンブルの演奏を披露、美しい音色が来場者を魅了した＝写真。

本学のほか、多摩区内にある日本女子大学、明治大学の学生有志も参加。また各大学が宣伝パネルとブースを出店し、地域の皆さんに大学の魅力をPRした。



写真提供＝メディスタくらしの窓新聞社